

# 開 会 挨拶

大分市長 **佐藤 樹一郎**



皆様、こんにちは。ご紹介をいただきました大分市長 佐藤でございます。

本日は「豊予海峡ルート推進シンポジウム」を東京にて開催をいたしましたところ、このようにたくさんの皆様にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

国会会期中の大変お忙しい中、国会議員の先生方、そして経済界や国・県などの関係の皆様からもたくさんの方にご参加をいただいております。心から感謝を申し上げます。

また、このシンポジウムは、先程紹介がありましたが、大分市のサテライト会場に配信をされておりますほか、多くの方々にネットで視聴していただいております。誠にありがとうございます。

本日のシンポジウムでございますが、基調講演では、前国土交通省国土審議会会長で名古屋都市センター長の奥野信宏様にお越しいただいており、続くパネルディスカッションでは、全日本建設技術協会の大石久和様、富山大学教授の金山洋一様、愛媛大学教授の矢田部龍一様、大分商工会議所・大分経済同友会の橋本均様、愛媛県伊方町長の高門清彦様、そして、日本青年会議所2021年度国家グループ国土強靱化委員会委員長で八代青年会議所の豊田啓勤様にご参加をいただいております。皆様、大変お忙しい中、お引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。

豊予海峡ルートは、大分県の佐賀関半島と愛媛県の佐田岬を隔てる約14キロメートルの海峡をトンネルや橋で結ぼうというものでございまして、第二国土軸に位置づけられております。しかしながら、現在、国におきまして整備にむけた具体的な動きはございません。この豊予海峡ルートが整備されますと、九州・四国・中国を結ぶ基幹的な交通ネットワークが形成されまして、東京・名古屋・大阪とも短時間で結ばれることとなり、「地方拠点の形成・強化」や「災害時のリダンダンシーの確保」、「観光需要の拡大」、さらには「地域産業の発展」、「地方移住の促進」など様々な効果が期待されます。

このような中、大分市では2016年から豊予海峡ルートの実現に向けた調査を行っており、その実現性や地域活性化に向けた意義を確認してまいりました。また、去年は、更なる機運の醸成と各分野における関心や調査研究を促すことを目的に、様々な分野の有識者の皆様からご意見をいただきまして、それをひとつの論集にまとめた「子どもたちに残す、強く新しい日本のために。豊予海峡ルート推進に関する論集」を作成いたしました。

そして、豊予海峡ルート実現の更なる機運醸成を図るため、本日この有識者の皆様にお集まりいただき、シンポジウムを開催することとした次第でございます。

この取り組みによりまして、国の関係者をはじめ、多くの国民の皆様が豊予海峡ルートの重要性についてより深くご認識をいただくことで、このプロジェクトの実現に向けた更なる議論のきっかけになることを望んでおります。

結びになりますが、このシンポジウムが、実り多きものになりますようにご祈念と御礼を申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。本日は宜しく願い申し上げます。



## 来賓挨拶

衆議院議員 **衛藤 征士郎**



皆様、こんにちは。只今、紹介にあずかりました、衆議院議員大分県選出の衛藤征士郎でございます。

本日は、大分市 佐藤樹一郎市長の主催のもとに、豊予海峡ルート推進シンポジウムの開催、誠にありがとうございます。御礼を申し上げたいと思います。また、コーディネーターの皆様、パネリストの皆様、そして、ご出席の皆様から敬意を表し、御礼を申し上げたいと思います。

実は、私共は、「豊予海峡ルート九州・四国海底トンネル建設議員連盟」というものをつくってありまして、九州と四国の多くの国会議員がこの議連に加入しており、私が会長を務めております。

調べてみますと、1990年の平成元年6月に、東海・南海・四国・九州国土軸建設議員連盟ができました。会長は、田村元 衆議院議長です。私が、議連幹事長でした。

戦後、国連は、日本にワイズマン博士を派遣しました。戦後の日本、荒廃した日本を速やかに再生・再興するための調査団が2回出されたのです。そして、昭和40年に、ワイズマンレポートが出されております。私は学生時代、このレポートに関心を持ちまして、以来ずっとこの問題に取り組んできたうちの一人です。昭和52年の参議院議員の当選以来、今は衆議院ですが、早いもので国会議員45年目になりました。この間、ずっとこれに取り組んでまいりました。

第二国土軸建設議連は、東京から東海・南海、そして、四国・九州、これを一泊二日かけて、ヘリコプターで調査をしました。それぞれ、各市で会合も行ってまいりました。

調べてみますと、第1回のシンポジウムは大分で開催しております。1989年、第二国土軸シンポジウムと称して、1回目が大分市での開催でした。その後も続きまして、2回目は和歌山市、続いて、松山市、徳島市、奈良市、伊勢市、熊本市、名古屋市、佐世保市、東京都、最後は再び、伊勢市ということで、太平洋国土軸報告会を行ってまいりまして、地元の市町村や経済界がものすごく盛り上がりました。

ところが、道路特定財源が一般財源化されて以来、太平洋新国土軸構想につきましては、財源問題で静かになったままの状態であります。

1988年、昭和63年に日本鉄道建設公団が、九州・四国海底トンネルは10年の工事で建設可能であるということを発表しました。最初は、海底トンネルの調査をし、その次に橋ができるかどうか時間をかけて調査をしました。橋については、地震は大丈夫だけど、台風が心配とのこと。その頃、風速40m/s、50m/sを想定しておりましたが、今は風速100m/sの風が吹く時代なのです。よって、現在では、九州・四国海底トンネルが有力とみております。

このような積み上げがありまして、本日出席の国土交通省国土政策局総合計画課 松原課長とこれからのことについて、お話をしたところ、大分市長が開催される本日のシンポジウムを始点として、令和のキックオフにしようということになりました。今日は、議員の皆様も出席

されておりますので、是非一緒になり、令和5年度予算の実質的な調査費を獲得できるよう努力をしていきたいと思っております。議員の先生方と協力をして、これから、豊予海峡ルート推進を大きな目標にしていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

今日は、この会場に日本青年会議所の会頭がいらっしゃいますが、日本青年会議所は毎年大きな目標を掲げております。是非、中島会頭のもとで、この第二国土軸、そして豊予海峡ルートを掲げていただきたいと思います。陳情です。

それから、佐藤市長に陳情があります。佐藤市長は、中核市市長会の会長代理です。全国の市長と関係がございますので、先程申し上げましたとおり、各市で実施してきたシンポジウムのことを我々議員と一緒に広く周知をしていただけたらと思っております。

是非、私も皆様と一緒に、頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。どうもありがとうございました。

## 参議院議員 衛藤 晟一

今日、こうして佐藤樹一郎大分市長の主催の下に、この豊予海峡ルート、ある意味でキックオフの決起集会を開会できましたことについて、心からのお慶びを申し上げます。

昭和50年代に、私は県議会に在籍しておりましたが、何とかこれをやり遂げたいという気持ちで、有志の皆で集まってスタートしたことを覚えています。国政に入ってから、一生懸命にやっけてまいりましたが、先程のお話にありました財源と経済性という問題により、後回しにされてきました。

新幹線はこれまでの計画は完成しております。これから、豊予海峡ルートをどうするか議論を始める時が来たのだと思っております。

もし、このようなネットワークが結ばれると、今までは単線での計算しかしていないかと思われませんが、ネットワークができた時に地域がどう変わるのかといった計算をしなければなりません。この計算方法もしっかり検討して、その結果を見直す時が来たと感じております。

この豊予海峡ルートの効果は、関西から西日本全体を変え、また、四国・九州の位置を変えてしまうことになるため、将来の国土計画にとって、非常に大きな意義を持っていると思っております。

戦後75年が経過して、新しい時代が到来しようとしておりますので、是非、皆様と一緒にやってやり遂げたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。





## 参議院議員 安達 澄

皆様、こんにちは。ご紹介をいただきました、大分県選出の参議院議員 安達澄と申します。

私の地元は大分県別府市でして、良く晴れた日には、愛媛県が見えます。その愛媛県を見ておりますと、風力発電の施設が見えるわけですが、近く感じることもあれば、一方で遠く感じることもございます。

宇和島運輸フェリーを使って、行き来することがありますが、やはり、豊予海峡ルートとして陸で繋がるというのは大きな意義があると思います。

大分県と愛媛県だけの話ではなく、四国・九州・日本全体に効果があるという話も聞いております。まさに、本日はそのような話が色々と聞けるだろうと思っております。

皆様とともに、夢に向かって頑張っていきたいと思っております。

本日はどうぞ宜しくお願いいたします。



## 衆議院議員 吉良 州司

皆様、こんにちは。ご紹介いただきました、大分1区選出衆議院議員の吉良州司でございます。

皆様とともに、実現に向けて邁進したいと思っております。頑張ります。

本日は、この後退席させていただきますが、お許しください。どうぞ宜しくお願いいたします。



## 衆議院議員 長谷川 淳二

皆様、こんにちは。本日のシンポジウムのご盛会、誠にありがとうございます。

私は、大分の対岸の愛媛4区で昨年初当選をさせていただきました長谷川淳二でございます。今日は、地元の伊方町の高門町長様も来られております。

私は、旧自治省に入省し、国土庁に出向した時に豊予海峡ルートの仕事に携わった経験がございます。当時、第4次全国総合開発計画のときでございます。国土庁の計画調整局が全国総合開発計画を所管しておりまして、その第4次全国総合開発計画推進の中で、豊予海峡ルート構想の推進に携わらせていただきました。また、愛媛県で副知事として、大分県の皆様と連携しながら、この構想の実現に汗を流したこともございます。

今後は、国政の立場から、この構想の実現に向けて、皆様と共に汗をかいてまいりたいと考



えております。

様々な課題がございますが、この私達の世代が、より良い日本を創っていくために、また、世界に冠たる技術を持つ国として、より強靱な国土をつくるうえでも、この豊予海峡ルートの実現にチャレンジをしていかなければならないと思います。

本日お越しの先生方と一緒に、また皆様とともに、この構想の実現に向けて頑張ったいと思います。

本日はどうぞ宜しくお願いいたします。

## 衆議院議員 山崎 正恭

先程、ご紹介いただきました、四国比例ブロック代表になります公明党の衆議院議員 山崎正恭と申します。

私も、先程ご挨拶されました長谷川議員と同じく、昨年10月の衆議院選挙で初当選させていただきました、現在1年目でございます。

本日は、豊予海峡ルート推進に関するシンポジウムの開催、誠にありがとうございます。

私は、実家が高知市の桂浜というところになります。この豊予海峡ルートができますと、どれほど地域経済が変わっていくのか、また、様々なことが変わっていくのかということを考える機会が多くございました。

私が高校3年生の時に瀬戸大橋ができました。愛媛大学の矢田部先生が、この論集の中で書かれておりますが、香川に行くのも一苦勞、岡山に行くのは本当に大変な時代でしたが、一気に高速道路が開通しまして、例えば、修学旅行は岡山を越えて広島に行ったりと様々なことが変わってまいりました。経済だけではなく、教育面でも変わっていきまして、また命を守るという点につきましては、平成30年の豪雨災害で橋が流された時、瀬戸大橋は四車線化しておりまして、上り下りそれぞれ二車線化していて良かった、ということを実感しました。

門司・下関のルートに代わって、四国内の航路も含めたルートが代替ルートとして活用されました。そのような意味でも、この豊予海峡ルートをつくっていかねばならないと思うところでございます。

もう一点が、大石先生が言われておりますが、やはりこれからは地域が誇りをもって、地域が主体性をもって取り組んでいかなければなりません。私も四国選出議員として、どのようにして地方を元気にしていくか、この地方創生において重要な点であると考えております。そのような中で、日本が発展していくためには、情報通信網と道路の二点が非常に重要であると感じております。

昨日、私は徳島県の勝山の方へ行ってまいりました。サテライトオフィスの誘致、また、今後は高等専門学校がそこに設立されるということでした。あの大自然に囲まれた山の中で学びながら、また、現在の最新の情報網を駆使しながら、自然に囲まれた環境の中で整備を進めていくことが求められているように思います。

私は、前職で中学校の教員を長く勤めてまいりました。現在、教育の一番大きな問題だと思うのは、日本の小学校・中学校・高校で30日以上、学校を休んでいる生徒が36万人いることで





す。日本の教育問題として、取り組まないといけない重要な問題ですが、その中の一つの取り組みとして、不登校特例法というのがございまして、効果があるのは個別最適化、一人ひとりに合った教育の重要性とオンラインを使った教育として、非常に可能性があるのではないかとということで、現在、精力的な取り組みが行われております。

私の地元の浦戸小学校も、本当に小さな学校で廃校するのではないかと言われていたのが、そのような取り組みを推進してきた結果、70%くらいの子どもたちが来てくれるようになりました。先程お話ししましたとおり、情報通信網の整備と道路の整備、この両面が整っていくことが、これからの四国や九州、特に東九州において重要ではないかと思っております。

最後になりますが、この論集の中で、京都大学の藤井先生がロンドンの例を挙げておられます。イギリスは、ロンドンと一緒にほかの地域と共に整備してきたというお話がございました。

衆議院465人の中で四国の衆議院議員は17人しかいません。私は、この地方を代表する立場として、しっかり地方の声を上げていながら、また、国土交通省に大臣を出す公明党の議員として皆様方とともに、この豊予海峡ルートの実現に向けて、全力で頑張りたいと思います。一緒に頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

## 国土交通省 国土政策局 総合計画課長 松原 英憲

只今、ご紹介にあずかりました、国土交通省 国土政策局 総合計画課の松原と申します。

国土計画を担当しております。本日はこのようなシンポジウムが盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

私は、国土形成計画班担当ということで、今の国土形成計画の検討状況について、ご紹介させていただきます。

ご承知の通り、新型コロナウイルスで社会が大きく変わりました。また、デジタル化の進展で暮らし方や働き方も大きく変わってきております。それ以外にも、自然災害の激甚化や少子高齢化など、国土をめぐる課題というものは多くございます。

このようなことから、新たな国土形成計画を策定する中で、昨年の9月から計画部会で議論をしているところでございます。議論の中では、こういう人口減少社会の中、いかにして地方で安心して、稼いで暮らしていけるのかとの視点で地域の活性化の話や、それから交通ネットワークとして、陸・海・空の交通ネットワークを整備し高度化していく、あるいは防災減災国土強靱化をしっかりとやっていく、といったことについて有識者の皆様に議論いただいているところでございます。

本年の夏頃には、基本的な方向性として、中間取りまとめを行い、来年にかけてしっかり審議会で議論をしていただき、新たな国土形成計画の策定に向けて取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、本シンポジウムは、すごい熱気でございますが、豊予海峡ルート推進の機運がますます高まり、寄与していくことを祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。



## 公益社団法人 日本青年会議所 会頭 **中島 土**

皆様、こんにちは。只今、ご紹介にあずかりました、公益社団法人 日本青年会議所にて会頭を務めております、中島土と申します。

本日は、佐藤市長をはじめ、大分市の皆様がこのように素晴らしいシンポジウムを開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

日本青年会議所は、全国で3万人の若手経営者が集まる民間の経済団体であります。今日は四国・九州から責任者も参加をさせていただいております。私達が得意としている2つのことをお話させていただきます。

1つ目は、運動を起こすことです。まちをより良くするためには、民間の力で何らかの行動を起こすことを得意としています。それを70年間、繰り返してまいりました。

2つ目は、当事者を生み出していくということであります。この豊予海峡ルートにおける大切なポイントではないかと考えております。青年会議所は、まちの経営者のメンバーだということは先程申し上げた通りですが、まちのこれからの伸びしろや未来など、そのようなことを自分事として捉えることができるようになってきました。全国に3万人のメンバーが在籍しておりますので、そのような当事者たるメンバーが、その意識を青年会議所の外にも広げて行き、このムーブメント、豊予海峡ルートが必要ということをさらに広げてまいりたいと考えております。

今年の10月には、大分市で全国大会を開催させていただきます。全国から約1万人以上のメンバーが集まり、そこでは多くの議論がなされます。この豊予海峡ルートの必要性を訴え、日本全国でこのムーブメント、当事者をさらに増やしていきたいと考えておりますので、引き続き、宜しく願いいたします。本日は誠におめでとうございます。



## 愛媛県東京事務所 所長 **八木 一成**

愛媛県 東京事務所所長の八木と申します。

本日はシンポジウムの開催、誠におめでとうございます。

この豊予海峡ルートは、愛媛県民にとりまして、切なる希望となっておりますので、国会議員の先生のご助言をいただきながら、県内各市町と連携をとり推進してまいりたいと思います。

どうぞ宜しくお願いいたします。ありがとうございます。

## 大分県東京事務所 次長 **川島 栄一郎**

大分県 東京事務所の川島です。

本日は、シンポジウムの開催おめでとうございます。

大分県も、大分市と一緒に頑張っていきたいと思います。

どうぞ宜しくお願いします。